

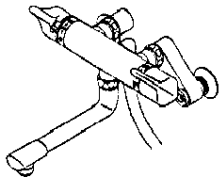
サーモユニット 施工説明書

製品の機能が十分発揮されるように、この施工説明書の内容にそって正しく取付けてください。
品番によっては図と現品の形状が一部異なることがあります。

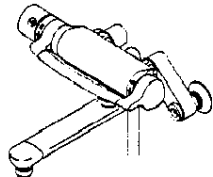
対象製品

このサーモユニットは「Gシリーズ」及び「アーチハンドルタイプ」のサーモスタット混合栓に適用します。

Gシリーズ
(TMG 40型)

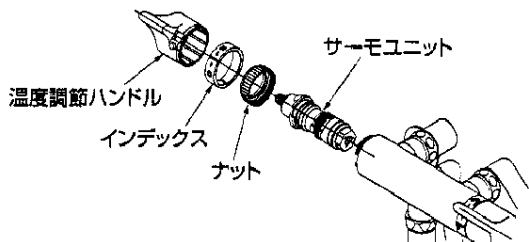


アーチハンドルタイプ
(TMF 40 CQ・WQ・DQ型)

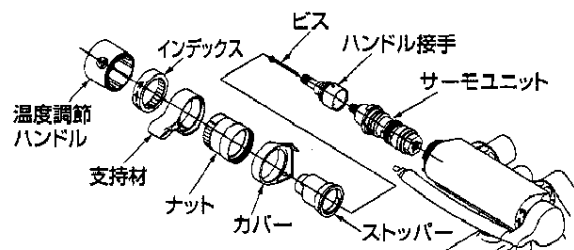


分解図

Gシリーズ



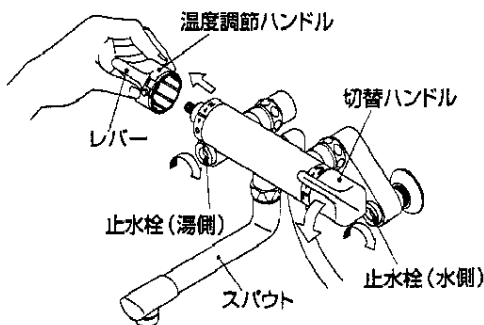
アーチハンドルタイプ



取替方法

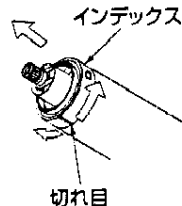
旧ユニットの取外し

1. 止水栓（湯側・水側）を閉め、切替ハンドルをスパウト側へ回して水を抜いた後に、温度調節ハンドルを取外してください。



※ハンドルは「はめ込み式」のため、矢印の方向に強く引くと抜けます。抜けない場合は、傷が付かないようにレバーを軽くたたいてください。

2. インデックスを取外してください。

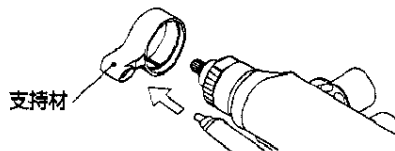


※インデックスは「はめ込み式」のため、下側の切れ目の部分から指先で広げるようにして取外してください。

※インデックスを広げすぎると割れるおそれがあります。

アーチハンドルタイプの場合

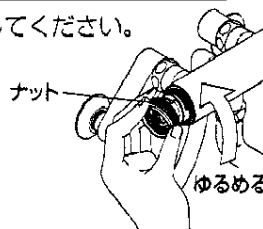
支持材を取外してください。



3. ナットを取外してください。

Gシリーズの場合

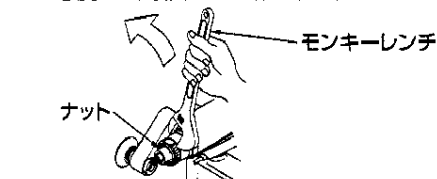
手で取外してください。



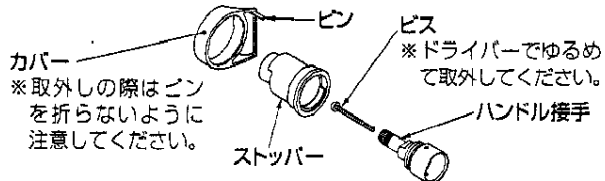
※手でゆるまない場合は、ゴム手袋やプライヤーなどの工具を使ってゆるめてください。

アーチハンドルタイプの場合

モンキーレンチを使って取外してください。



次の部品も取外してください。



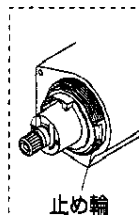
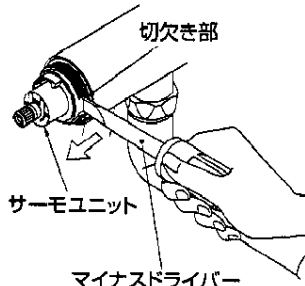
※取外しの際はピンを折らないように注意してください。

※ドライバーでゆるめて取外してください。

4. 切欠き部にマイナスドライバーを差込み、サーモユニットを取外してください。

アーチハンドルタイプの場合

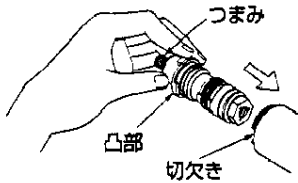
注意 切欠き部の止め輪を外さないでください。



新ユニットの組み込み

注意 ※サーモユニットは特殊組立をしておりますので絶対に分解しないでください。

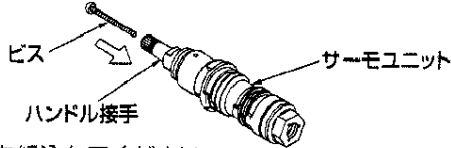
1. サーモユニットの凸部を本体の切欠きに合わせて水栓本体に組込んでください。



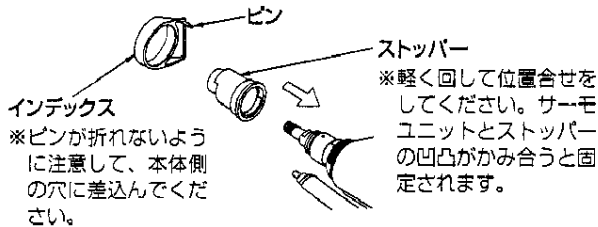
※温度調節をしておりますので、つまみの部分は回さないでください。

アーチハンドルタイプの場合

サーモユニットにハンドル接手を組み込み、ドライバーでビスを確実に固定してから上記のように取付けてください。



次の部品を組み込んでください。



※ピンが折れないように注意して、本体側の穴に差込んでください。

※軽く回して位置合せをしてください。サーモユニットとストッパーの凹凸がみ合うと固定されます。

2. ナットを取付けてください。

Gシリーズの場合

手で確実に締付けてください。



アーチハンドルタイプの場合

モンキーレンチを使って締付けてください。

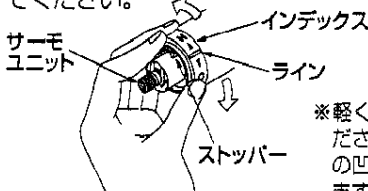


支持材を挿入し、切替ハンドルのガイドピンを取付けてください。

3. インデックスを取付けてください。

Gシリーズの場合

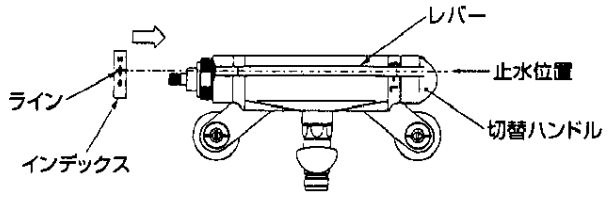
サーモユニットのストッパーにラインを合わせ、取付けてください。



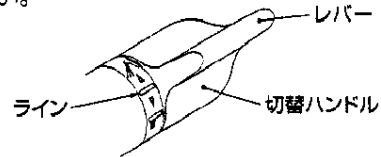
※軽く回して位置合せをしてください。インデックスと本体の凹凸がみ合うと固定されます。

アーチハンドルタイプの場合

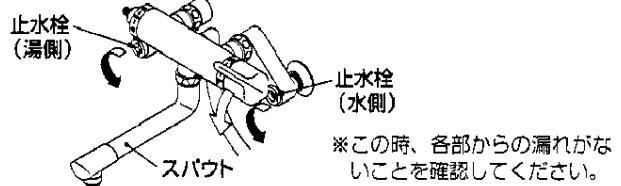
切替ハンドルを止水位置に合わせ、レバーの延長上にラインがくるように取付けてください。



4. 切替ハンドルのレバーをライン（止水位置）に合わせてください。

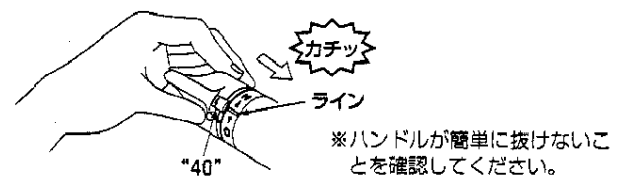


5. 止水栓（湯側・水側）を開き、スパウトより吐水させてください。



※この時、各部からの漏れがないことを確認してください。

6. 温度調節ハンドルを“40”の文字とラインが合うように“カチッ”と音がするまで押込んでください。



※ハンドルが簡単に抜けないことを確認してください。

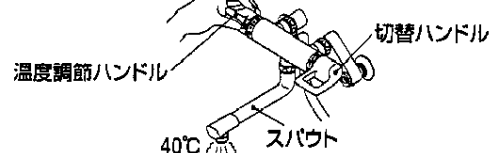
温度調節

工場でおよそ40℃の湯が出るように調節していますが、取付現場の圧力状況などにより、目盛どりの吐水温度にならない場合があります。必ず次の要領で温度調節をしてください。

調節する前に次のことを確かめてください。

- 止水栓（湯側・水側）は全開になっていますか。
- ストレーナ（湯側・水側）のごみづまりはありませんか。
- 常用給湯温度（50℃以上）の湯はきていますか。

1. 切替ハンドルを回してスパウトより吐水させ、目盛に関係なく40℃の湯がでるまで温度調節ハンドルを回してください。



2. 温度調節ハンドルが回らないように注意して取外し、“40”の文字とラインが合うように“カチッ”と音がするまで押込んでください。

